

ガラス系イオン伝導体の最前線
～2022 年国際ガラス年 IYOG 記念シンポジウム～
State of the art of glass materials for solid electrolytes
～2022 International Glass Year IYOG Memorial Symposium～
開催日時 2022 年 9 月 21 日(水) 13:30～18:00(予定)

カーボンニュートラル社会の実現を見据え、安全で高信頼性、高出力・高エネルギー密度な電池を実現するため、電解液にかわり固体電解質を用いた全固体電池が注目されています。非晶質・ガラスなどのランダム系イオン伝導性固体は、大きな自由体積と等方的イオン伝導パス、組成自由度や構造緩和など、電池の特性向上に魅力的な特徴を有しています。2022 年の国際ガラス年(IYOG)にあわせ、ランダム系固体イオニクス材料の現状と展望に関するシンポジウムを企画しました。本分野の第一線でご活躍の先生方にご講演頂きます。一般講演も募集します。多数のご参加をお待ちしています。

招待講演(敬称略)

- 作田 敦 (大阪公立大学)
硫化物系ガラス電解質を用いた全固体電池の固体界面形成
- 小笠 和仁 (株式会社オハラ)
ガラスを用いた酸化物固体電解質材料開発
- 堀毛 悟史 (京都大学)
金属-有機構造体：MOF のガラス相の構造と機能
- 松嶋 雄太 (山形大学)
炭酸ヨウ化銀系固体電解質の室温超イオン伝導性
- 館山 佳尚 (物質・材料研究機構)
固体電解質の先端理論計算研究
- 浦田 新吾 (AGC 株式会社)
分子シミュレーションによるリチウムボロシリケートガラスのモデリング
- 尾原 幸治 (高輝度光科学研究センター)
硫化物ガラスにおける Li イオンの電荷密度解析
- 忠永 清治 (北海道大学)
液相法による硫化物系固体電解質の合成と全固体リチウム電池への応用

世話人: 梶原 浩一(都立大)、大幸 裕介(名工大)、本間 剛(長岡技科大)
企画協力: 林 晃敏(大阪公立大)